

東陽中だより

教育目標 ～明日を拓く～

・豊かな心 ・活きた知性 ・たくましい体

発行責任者 小野寺 憲治

文 責 佐々木 正道

発行日 平成29年11月30日

SNSに潜む危険な罠から子どもを守る

東陽中学校長 小野寺憲治

昨年の根雪は10月29日と記憶していますが、今年はどうやら先日の降雪で根雪となりそうな気配です。今年も残すところ一月あまりとなりました。今月末には1, 2年生の期末テストが行われ今年のテスト納めとなりました。一方3年生は、三者面談が終わり、進路志望校が決定しました。受験までの残された期間は勉強漬けの日々が続くこととなりますが、自身の思い描く高校生活に思いを馳せ計画的な学習が重要となります。

さて、本題に入りますがスマホ、ケータイ、パソコン等の普及は、通話やネット閲覧、ゲーム、情報交換等が瞬時に行えるなど多くの人達にとって生活に欠かすことができないものとなっています。反面、歩き・自転車・バス待ち・車・列車等のスマホ使用など挙げると切りがありませんが、大人も子どもも夢中になる姿が見られるようになりました。また、家庭においてはLINE、ツイッター等などのメディアに触れる時間が多く批判や注意の対象にもなっています。更には匿名でのアカウント取得、顔を合わせる事なく不特定多数との情報交換が可能となり、ツイッター等においては世界中どこの人とも交流できるようになっています。こうした中、神奈川県座間市のアパートで女子高生3人を含む男女9人の遺体が見つかった事件は、世間を震撼させると同時に「SNS」※等に潜む罠の怖さを改めて考えさせられることとなりました。9人の犠牲者を受けて国も本腰を挙げて規制に乗りだそうとしています。

先日、本校では生徒会が主催する全校集会を行いました。いじめや学校生活を見直すための事前アンケートを行いその結果を受けたものです。いじめの定義を確認し、幾つかの事例から全校生徒に考えてもらう取組でした。近年増え続けているSNS、LINE等を利用したいじめが増えていることに特化し、アンケート結果の共有といじめを考え改善を図ろうという生徒主体の集会です。また、その結果から、スマホ、ケータイ等の保有率は高く、メールやLINEなどを利用している生徒はほぼ100%近くに及んでいることもわかりました。中には嫌なことを書き込まれた経験をもつ生徒もいました。一步使い方を誤ると前述のような事件に巻き込まれる危険性が潜んでいることは多くが気付くはずで、自分が誰であるか分からないようにして情報の世界に入り込み、人の弱味に付け込むために罠を張るこうした卑劣な犯行から子ども達を守るのは私たち大人にも責任があります。決して巻き込まれることがないよう情報教育の徹底を関係機関・地域・保護者・学校が相互に連携し進めなければなりません。まずは、家庭においてはスマホ・ケータイ・パソコン等の利用方法や利用時間について“約束づくり”から始めてください。学校は、メディア等の使用・活用方法として関係機関（警察や販売業者など）や道徳も含めた授業、さらに、全教育活動を通してその怖さを指導します。

SNSとは、Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の略。その名の通り、社会的な繋がりを作り出せるサービスのことです。SNSに登録し、誰かと繋がって日記を書いたり、誰かの日記にコメントをつけたりすることで、情報交換や会話を楽しむことができます。